

教育学科

教育学認定心理士コース

3年生

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要					
本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。					
教科書		適宜プリントを配布する			
レポート	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
科目終了試験	学修のポイント1	次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事が簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)			
	学修のポイント2	東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。			
	学修のポイント3	AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。			
	学修のポイント4	日本の四季の天気の特徴を説明せよ。			
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。			
	学修のポイント6	「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み不可 授業で扱った問題から出題		
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(実技)		科目名:音楽実技ⅡB		講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論（楽典、和声法）、鍵盤楽器の基本的奏法を用いて、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術について実践を通して学んだが、「音楽Ⅱ」では、さらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。				
教科書	「バイエルピアノ教則本」、「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」、「こどものうた大百科」、配布楽譜、等				
期末試験	実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回					
第4回	バイエル 70～106 の未終了曲				弾き歌い①
第5回	〃				〃
第6回	〃				〃
第7回	〃				〃
第8回	〃				〃
第9回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い①〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第10回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い①〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第11回	バイエル 70～106 の未終了曲				弾き歌い②
第12回	バイエル 70～106 の未終了曲				弾き歌い②
第13回	〃				〃
第14回	〃				〃
第15回	〃				〃
第16回	〃				〃
第17回	〃				〃
第18回	〔 中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い②〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第19回	〔 中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い②〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第20回	バイエル 70～106 の未終了曲				弾き歌い③
第21回	バイエル 70～106 の未終了曲				弾き歌い③
第22回	バイエル 70～106 の未終了曲				弾き歌い③
第23回	〃				〃
第24回	〃				〃
第25回	〃				〃
第26回	〃				〃
第27回	〃				〃
第28回	〃				〃
第29回	まとめ・発表				
第30回	まとめ・発表				
第31回	〔期末試験: バイエル 70～106 から1曲、弾き歌い③〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲				
第32回	〔期末試験: バイエル 70～106 から1曲、弾き歌い③〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲				
単位取得にあたり		上記のバイエル番号は、最低ラインで、終了した学生はさらに上を目指すように。			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。出席不足の場合は再履修とする。		
	期末試験	15点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト: 10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
		15点	バイエル: 5点×3曲		
		15点	弾き歌い: 5点×3曲 ただし正伴奏で弾けること（和音伴奏の場合は5曲）		
		5点	発表: 未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物: 減点とする（1回につき 1点減点）		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より3曲（未合格のもの）以上を選択				

(講義)		科目名:心理学的支援法(心理療法) (教育・保育は「心理療法概説」)		講師: 平石太一	
科目概要・目標		理療法の理論は、40を越えるものがあり、変転進歩しつつある領域である。その中でも広く実践されているものとして、精神分析的療法、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、家族療法、芸術療法、森田療法、内観療法、集団心理療法などの考え方を学ぶ。それぞれの理論や定石を知ること、目今の個人に即応するよう工夫し、クライエントの資質や周りの資源の力を生かせるような援助を可能にするために、それぞれのアプローチに関する効用と限界に関する理解を深める。事例論文を読み、ディスカッションを通して実践的な理解を図る。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。			
教科書		『基礎から学ぶ心理療法』 矢澤美香子編 ナカニシヤ出版			
提出課題	レポート設題1	各種の心理療法の中から、3つの心理療法を取り上げて、それぞれについて論述せよ。 (ポイント)それぞれの技法について、治療のねらい、その対象者、治療法などについて述べ、その効用と限界について考察する。			
	学修のポイント1	心理療法の構造について			
	学修のポイント2	精神分析の治療について			
	学修のポイント3	カウンセラーの3条件(中核3条件について)			
	学修のポイント4	認知療法における「認知」について			
	学修のポイント5	日本で生まれた心理療法について			
	学修のポイント6	家族療法の考え方について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 心理療法の構造Ⅰ			
第2回		心理療法の構造Ⅱ			
第3回		代表的な心理療法			
第4回		クライエント中心療法			
第5回		解決志向アプローチ			
第6回		認知行動療法			
第7回		日本の心理療法			
第8回		興味のある心理療法			
第9回		芸術療法Ⅰ			
第10回		芸術療法Ⅱ			
第11回		家族療法			
第12回		心理療法の実際			
第13回		専門家と当事者			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート内容等を評価対象とする。		
備考		他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名:教育実習指導(初等)		講師:奥村一成	
科目概要・目標	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。 本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解(教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。 また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。 学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。 (実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	参考文献	【教科書】 「教育実習(初等)の手引き」 【参考資料】 ①平成29年告示小学校学習指導要領対応「小学校教育実習ガイド」 ②文科省「小学校学習指導要領解説」			
	期末試験	授業の中で指示する。			
	回数	授業内容			
	第1回	講義概要、教育実習の意味 実習に向けての自己課題			
第2回	子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅰ 教育環境と子どもの実態				
第3回	子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅱ 教育環境と子どもの実態				
第4回	実習に必要な心構え				
第5回	指導案、記入に必要な事項				
第6回	子どもの活動と教師の援助、支援				
第7回	指導案一枚の中の関連				
第8回	指導案の作成と分析Ⅰ 題材、活動内容等の記入				
第9回	指導案の作成と分析Ⅱ 援助、支援等の工夫				
第10回	模擬授業の実際 その1				
第11回	模擬授業の実際 その2				
第12回	模擬授業の実際 その3				
第13回	子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1				
第14回	子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2				
第15回	目指す授業と自己課題の再設定				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	自分の課題意識が持てたかどうか		
	授業内評価	20点	授業態度		
		20点	提出物		
備考		実習を前にした大切な授業であるという意識と緊張感をもち、積極的な態度で学修して欲しいと願っています。			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師:高橋直子	
科目概要・目標	パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。				
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)			
期末試験		実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		パワーポイントの基本			
第2回		いろいろなスライドの作成			
第3回		効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用			
第4回		リンク機能の利用			
第5回		グラフのスライドの作成			
第6回		SmartArt機能を使ったスライドの作成			
第7回		図解のパターンを理解するスライドの作成			
第8回		スライドマスターの利用			
第9回		図解の復習			
第10回		複雑な図解のスライドの作成			
第11回		自由にアレンジしたスライドの作成			
第12回		話の流れを考える			
第13回		復習			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
	教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション レクリエーション(以下「レク」)支援とは/現場実習について 実技体験				
第2回	レク支援の展開方法(1) 個別及び集団レク支援方法とその実践				
第3回	レク支援の理論(1) コミュニケーションと信頼関係づくりの理論				
第4回	レク支援の理論(2) 良好な集団づくりの理論				
第5回	レク支援の理論(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論				
第6回	レク支援の方法(1) 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ				
第7回	レクリ支援の方法(2) 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング				
第8回	レク支援の方法(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法①				
第9回	レク支援の方法(4) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法②				
第10回	レク支援プログラムの立案 グループ単位でレクプログラムを立案する				
第11回	レク支援実習① 立案したレクプログラムの支援実習				
第12回	レク支援実習② 立案したレクプログラムの支援実習				
第13回	レク支援実習③ 立案したレクプログラムの支援実習				
第14回	レク支援実習④ 立案したレクプログラムの支援実習				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	30点	支援計画書の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:体育科指導法		講師:山口榮三	
科目概要・目標	体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学修する。スクーリングは実技中心の授業であり、体育の模擬授業形式で授業を進める。部分的には講義やディスカッション形式で授業を行う。				
教科書		高橋建夫『新版 体育科教育学入門』大修館書店 小谷川元一『教師と親の「共育」で防ぐ いじめ・学級崩			
提出課題	レポート設題1	体育学修のポイントを整理し、具体的事例をもとにより良い体育授業について述べよ。			
		(ポイント) 次の点を踏まえて述べること。 ①「わかる」「できる」「かかわる」が両立する体育授業とは何か把握する。 ②体育の特性を整理し、人間関係構築のために体育科の果たす役割を理解する。 ③子どもが伸びる具体的な教材を示し、授業のポイントを整理する。			
	学修のポイント1	体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか			
	学修のポイント2	人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか			
	学修のポイント3	体育の教材づくりについて、具体的な事例をもとに述べよ。			
	学修のポイント4	体育科学習指導案作成上の留意点について			
	学修のポイント5	いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について			
	学修のポイント6	体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて			
期末試験		上記の科目修了試験学習ポイント1～3の設題から1つ			
回数		授業内容			
第1回		体育の学習主体の子どもの理解			
第2回		体育の領域と単元構成について教科書をもとに整理する。			
第3回		典型教材を作成する。(資料等を参考にしながら、児童に学習させたい教材を考案する。			
第4回		人間関係を構築する体育学習について教科書等をもとに整理する。(希薄な人間関係の社会背景についても考察する)			
第5回		いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について、参考書の具体的事例などをもとに整理する。			
第6回		体育学習において教師が特に配慮すべきことについて、自身の経験をもとにまとめる。(安全面の配慮は必ずおさえる)			
第7回		体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。			
第8回		体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。			
第9回		体育学習指導案作成「体づくり運動系教材」			
第10回		体育学習指導案作成「器械運動系教材」			
第11回		体育学習指導案作成「ボール運動系教材」			
第12回		体育学習指導案作成「保健学習系教材」			
第13回		体育学習指導案作成「陸上運動系教材」			
第14回		体育学習指導案作成(「水泳系教材」「表現運動系教材」から一つを選んで)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
10点		授業態度:本学ルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。			
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。			

(講義)		科目名:心理的アセスメント(心理)/心理検査法(教育)		講師:武野 全恵	
科目概要	事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役に立つのかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。				
教科書		オリジナルの資料を中心に講義を行っていくが、他に参考資料を配布する場合もある。			
提出課題	レポート設題1	以下の4種の心理検査の中から、任意に1種選択し、選択した心理検査についてその特徴を述べよ。 ＜心理検査＞ 「ウェクスラー式知能検査」、「YG性格検査」、「ロールシャッハテスト」、「エゴグラム」			
	レポート設題2	以下の4種の心理検査の中から、【設題1】で選択したもの以外にもう1種選択し、選択した心理検査についてその特徴を述べよ。 ＜心理検査＞ 「ウェクスラー式知能検査」、「YG性格検査」、「ロールシャッハテスト」、「エゴグラム」			
	学修のポイント1	臨床心理アセスメントの倫理について			
	学修のポイント2	アセスメント面接について			
	学修のポイント3	乳幼児の発達に関する検査について			
	学修のポイント4	神経心理学的アセスメントについて			
	学修のポイント5	質問紙法の長所と短所について			
	学修のポイント6	投映法(投影法)の長所と短所について			
期末試験		詳細は後日に発表する			
回数		授業内容			
第1回		心理的アセスメントとは -臨床心理アセスメントの歴史と倫理について-			
第2回		質問紙法とは -エゴグラムを例にして-			
第3回		エゴグラムについてポイント解説 3200字レポ 設題1「エゴグラムについて、その特徴を述べよ。」下書き			
第4回		投映法とは -ロールシャッハテストを例にして-			
第5回		投映法(投影法)の長所と短所についてポイント解説 1200字レポ 学修のポイント6「投映法(投影法)の長所と短所について」			
第6回		知能検査とは -ウェクスラー式知能検査を例にして-			
第7回		ウェクスラー式知能検査についてポイント解説 3200字レポ 設題2「ウェクスラー式知能検査について、その特徴を述べよ。」下書き			
第8回		レポート設題1下書きについてフィードバック 3200字レポ 設題1「エゴグラムについて、その特徴を述べよ。」清書			
第9回		神経心理学的アセスメントとは			
第10回		神経心理学的アセスメントについてポイント解説 1200字レポ 学修のポイント4「神経心理学的アセスメントについて」			
第11回		レポート設題2下書きについてフィードバック 3200字レポ 設題2「ウェクスラー式知能検査について、その特徴を述べよ。」清書			
第12回		乳幼児の発達に関する検査とは			
第13回		アセスメント面接とは			
第14回		授業まとめとテスト準備			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	50点	論述式。持ち込み可。		
	授業内評価	10点	レポートの提出状況を踏まえて評価を行う。		
		10点	授業態度を踏まえて評価を行う。		
備考		欠席するとその回は態度の評価ができませんので、授業態度点も減点となります。そのため、できるだけ欠席をしないよう体調管理等に気を付けてください。また、進度によってはシラバスと内容が変更となる可能性があります。			

2026年度 前期

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:片桐 淳	
科目概要・目標	教員採用試験や将来教壇に立った時に必要となる各教科の教養を高めること				
教科書		なし			
期末試験		総復習テスト			
回数		授業内容			
第1回		教科復習等			
第2回		教科復習等			
第3回		教科復習等			
第4回		教科復習等			
第5回		教科復習等			
第6回		教科復習等			
第7回		教科復習等			
第8回		教科復習等			
第9回		教科復習等			
第10回		教科復習等			
第11回		教科復習等			
第12回		教科復習等			
第13回		教科復習等			
第14回		教科復習等			
第15回		教科復習等			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	25点	総復習テスト		
	授業内評価	45点	各回復習テスト(3点×15回)		
備考					

2026年度前期

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅱ(教採対策理科)		講師: 奥村 一成	
科目概要・目標	教員採用試験の小学校全科のうち、学習指導要領(理科)と理科についての出題を予想して演習を行う。				
教科書		参考書:過去問(2026年度)			
期末試験		授業内で指示します。			
回数		授業内容			
第1回		学習指導要領における「理科の目標と各学年の内容」			
第2回		学習指導要領における「理科の指導計画の作成と内容の取扱い」			
第3回		物質・エネルギー(物理分野Ⅰ)			
第4回		物質・エネルギー(化学分野Ⅰ)			
第5回		生命・地球(生物分野Ⅰ)			
第6回		生命・地球(地学分野Ⅰ)			
第7回		物質・エネルギー(物理分野Ⅱ)			
第8回		物質・エネルギー(化学分野Ⅱ)			
第9回		生命・地球(生物分野Ⅱ)			
第10回		生命・地球(地学分野Ⅱ)			
第11回		物質・エネルギー(物理分野Ⅲ)			
第12回		物質・エネルギー(化学分野Ⅲ)			
第13回		生命・地球(生物分野Ⅲ)			
第14回		生命・地球(地学分野Ⅲ)			
第15回		期末試験対策			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み資料なし。		
	授業内評価	20点	課題		
		20点	受講姿勢		
備考		授業課題に向けて、実際に演習します。			

(講義)		科目名：特別ニーズ教育論		講師： 花木元司	
科目概要・目標	障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題についてそれぞれ講述する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		【教科書】玉村公二彦、他『新版 キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ。 【参考資料】湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝「よくわかるインクルーシブ教育」ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題1	現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。			
	学修のポイント1	インクルーシブ教育の理念について			
	学修のポイント2	特別支援教育とインクルーシブ教育について			
	学修のポイント3	障害の理解について			
	学修のポイント4	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について			
	学修のポイント5	障害児の教育課程について			
	学修のポイント6	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて			
期末試験		講義の中で発表する。			
回数		授業内容			
第1回		インクルーシブ教育とは ポイント①			
第2回		インクルーシブ教育の理念について ポイント①			
第3回		我が国の障害児教育 特別支援教育の歴史 ポイント②			
第4回		現在の特別支援教育の現状と課題 ポイント②			
第5回		特別支援教育とインクルーシブ教育について ポイント②			
第6回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第7回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第8回		障害の理解について 視覚障害・聴覚障害 ポイント③			
第9回		障害の理解について 知的障害・肢体不自由・病弱 ポイント③			
第10回		障害の理解について 重度重複障害児 ポイント③			
第11回		障害の理解について 発達障害：学習障害（読み書き障害）・ADHD・自閉症（ASD） ポイント③			
第12回		障害児の教育課程について ポイント⑤			
第13回		障害児の教育課程について ポイント⑤			
第14回		特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ポイント⑥			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	的確に課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考					

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅵ(教育法規)		講師: 木内正範	
科目概要・目標	本科目は、教員採用試験対策「教職教養」の教育法規の学習として、問題集(過去問題を含む)を中心に組み、採用試験に対応できる知識を身につけることを目指している。				
教科書		教員採用試験対策 参考書2 教職教養Ⅱ 東京アカデミー編			
期末試験		説題は事前に提示			
回数		授業内容			
第1回		学修の目的と方法(問題集の学修と確認テスト) 1.教育法規とは何か(p.134～)テキスト セサミ＝(A) (B) 確認テスト			
第2回		2.参考書2 憲法と教育基本法(p.141～)テキスト セサミ (1) (2)、確認テスト			
第3回		2.参考書2 憲法と教育基本法(p.147～)テキスト 参考書2 「1」「2」、確認テスト			
第4回		3.参考書2 学校に関する法規(p.156～)テキスト セサミ(3) (4)、確認テスト			
第5回		3.参考書2 学校に関する法規(p.170～)テキスト 参考書2 「3」「4」、確認テスト			
第6回		4.参考書2 学校教育に関する法規(p.183～)テキスト セサミ(5) (6) (7)、確認テスト			
第7回		4.参考書2 学校教育に関する法規(p.207～)テキスト 参考書2 「5」「6」「7」、確認テスト			
第8回		5.子どもに関する法規(p.221～)テキスト セサミ (8) (9)、確認テスト			
第9回		5.子どもに関する法規(p.235～)テキスト 参考書2 「8」「9」、確認テスト			
第10回		6.教職員の法規(p.252～)テキスト セサミ (11) (12)、確認テスト			
第11回		6.教職員の法規(p.271～)テキスト 参考書2 「10」「11」「12」、確認テスト			
第12回		7.教育行政、生涯教育(p.302～)テキスト セサミ (13) (14)、確認テスト			
第13回		7.教育行政、生涯教育(p.307～)テキスト 参考書2 「13」(15)、確認テスト			
第14回		問題集1より、「①憲法と教育基本法」「②学校に関する法規」「③学校教育に関する法規」、確認テスト			
第15回		問題集1より「④子どもに関する法規」「⑤教職員の法規」「⑥教育行政等の法規」確認テスト ◎期末試験の設題について			
第16回		期末試験(教科書等持ち込み不可) 60分間			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	20点	ディスカッション(私見、具体性、建設的な意見等)		
		30点	受講態度(学習意欲、質問、意見等)		
備考		1 授業では、問題文の意味を正しく理解して、文面の前後から解答のヒントを探り出し、最適と思う解答を考えてください。そして、正解と誤答をチェックしながら、正解を覚えてください。 2 教員採用試験への学習は、マラソンです。ゴールまでの距離(時間)に対して、計画的に、持続的に息の切れない走りが大切です。健康管理を十分にして、無理のない走り続けられるライフプランを立て、悔いのない走りをしてください。期待していますよ。			

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンスを含む)		講師:室山俊浩 仁井田 和也	
科目概要・目標	外部講師の話を聞くことで、就職活動についての意識を高めていく。 公務員試験や能力試験対策として問題演習を行う。				
教科書	配布資料を基に学習を進める				
期末試験	後日連絡				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	問題演習				
第3回	ジモト就活について				
第4回	問題演習				
第5回	就労支援事業について				
第6回	就職活動について				
第7回	キャリアシームーツ 学内企業説明会				
第8回	問題演習				
第9回	法人等による出張授業				
第10回	問題演習				
第11回	法人等による出張授業				
第12回	問題演習				
第13回	法人等による出張授業				
第14回	問題演習				
第15回	問題演習				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

令和8年度 前期

(講義)	科目名:教職教養演習Ⅱ(社会)	講師:山田哲史
科目概要	今後、受験することとなる小学校教員採用試験を想定しながら、社会に関する内容について問題演習を通して得点力を高めていきたい。	
教科書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)	
参考書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション/問題演習①	
第2回	問題演習②	
第3回	問題演習③	
第4回	問題演習④	
第5回	問題演習⑤	
第6回	問題演習⑥	
第7回	問題演習⑦	
第8回	問題演習⑧	
第9回	問題演習⑨	
第10回	問題演習⑩	
第11回	問題演習⑪	
第12回	問題演習⑫	
第13回	問題演習⑬	
第14回	問題演習⑭	
第15回	問題演習⑮	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	授業内評価	40点 期末テスト
		30点 授業態度
備考	授業内容は変更になる場合があります。	

(講義)		科目名:専門実技 I (教科実技)		講師:松村久美子	
科目概要・目標	授業者としての資質能力、実践力を授業実践を通して自ら高めていく。適宜、教員採用試験必出であり教職現場に必要な法規や、教育に関する時事の共有・意見交換を加えつつ、教育実習・教職に就いた際に必要とされる資質能力を高める。				
	教科書	授業中の配布プリント、ワークシート (2年次配布の省察ノート)			
期末試験	実践までや実践での自身への気付きや試行錯誤、工夫等を具体的に書き、教師の資質能力を培うために今から未来に向かって自身がすべきことを述べよ。				
回数	授業内容				
第1回	指導案検討 算数4年 教採(1)2026年動向				
第2回	算数科授業検討一年 教採(2)時期学習指導要領				
第3回	算数科授業検討二年 教採(3)教育振興基本計画				
第4回	算数科授業検討三年 教採(4)令和の日本型学校教育				
第5回	算数科授業検討四年 教採(5)生徒指導提要①				
第6回	算数科授業検討五年 教採(6)生徒指導提要②				
第7回	算数科授業検討六年 教採(7)受験県の指針				
第8回	授業実践教材作成 教育実習①準備				
第9回	算数科授業実践① 教育実習②初日				
第10回	算数科授業実践② 教育実習③自己紹介				
第11回	算数科授業実践③ 教育実習④板書				
第12回	算数科授業実践④ 教育実習⑤子どものやる気				
第13回	算数科授業実践⑤ 教育実習⑥お礼状				
第14回	国語科の授業 物語文 板書 縦書き				
第15回	音読方法				
第16回	期末テスト				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	10点	授業準備		
		10点	実践授業		
		20点	授業態度		
備考	計画ありきではなく、受講生からの教育時事などの自主的な提供・共有・検討を奨励する。				

令和8年度 前期

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅴ(小論・面接)		講師:山田哲史	
科目概要	今後、受験することとなる小学校教員採用試験を想定しながら、小論文や面接に関する内容について問題演習を通して理解の幅を広げていきたい。				
教科書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)				
参考書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション/問題演習①				
第2回	問題演習②				
第3回	問題演習③				
第4回	問題演習④				
第5回	問題演習⑤				
第6回	問題演習⑥				
第7回	問題演習⑦				
第8回	問題演習⑧				
第9回	問題演習⑨				
第10回	問題演習⑩				
第11回	問題演習⑪				
第12回	問題演習⑫				
第13回	問題演習⑬				
第14回	問題演習⑭				
第15回	問題演習⑮				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	授業内評価	40点	期末テスト		
		30点	授業態度		
備考	授業内容は変更になる場合があります。				

教育学科

教育学 ICT コース

3年生

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。					
教科書		適宜プリントを配布する			
レポート	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
科目終了試験	学修のポイント1 次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事が簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)				
	学修のポイント2 東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。				
	学修のポイント3 AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。				
	学修のポイント4 日本の四季の天気の特徴を説明せよ。				
	学修のポイント5 高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。				
	学修のポイント6 「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。				
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み不可 授業で扱った問題から出題		
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(実技)		科目名:音楽実技ⅡB		講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽」で習得した音楽理論(楽典、和声法)や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い(ピアノ伴奏をしながら歌う)等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。				
教科書	「バイエルピアノ教則本」、「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」、「こどものうた大百科」、配布楽譜、等				
期末試験	実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回	バイエル 70～106 の未終了曲弾き歌い①				
第4回	〃〃				
第5回					
第6回	〃〃				
第7回					
第8回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い①〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第9回					
第10回	バイエル 70～106 の未終了曲弾き歌い②				
第11回	〃〃				
第12回					
第13回	〃〃				
第14回					
第15回	〃〃				
第16回					
第17回	〔 中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い②〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第18回					
第19回	バイエル 70～106 の未終了曲弾き歌い③				
第20回	〃〃				
第21回					
第22回	〃〃				
第23回					
第24回	〃〃				
第25回					
第26回	〃〃				
第27回					
第28回	まとめ・発表				
第29回					
第30回	〔期末試験: バイエル 70～106 から1曲、弾き歌い③〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲				
第31回					
第32回					
単位取得にあたり	上記のバイエル番号は、最低ラインで、終了した学生はさらに上を目指すように。				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。出席不足の場合は再履修とする。		
	期末試験	15点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト: 10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
		15点	バイエル: 5点×3曲		
		15点	弾き歌い: 5点×3曲 ただし正伴奏で弾けること(和音伴奏の場合は5曲)		
		5点	発表: 未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物: 減点とする(1回につき 1点減点)		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より3曲(未合格のもの)以上を選択				

(講義)		科目名:情報セキュリティ		講師: 高瀬 基行	
科目概要・目標	本科目では、コンピュータシステムおよびセキュリティとプライバシー保護について学ぶ。具体的には、システム保護、システムの信頼性、システムの欠陥への対処、データ保護と暗号、ハッキングとソーシャルエンジニアリングについて、演習を通じて、かなり高度な内容にまで踏み込み、情報セキュリティに関する深い理解を図る。				
教科書		独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 『情報セキュリティ読本 七訂版 ―IT時代の危機管理入門』 実教出版			
提出課題	レポート設題1	情報資産への脅威について述べよ。			
	レポート設題2				
	学修のポイント1	情報セキュリティマネジメントシステムの設計について			
	学修のポイント2	暗号化と電子認証について			
	学修のポイント3	電子情報セキュリティに関する基準・法制度について			
	学修のポイント4	脅威とリスクについて(危機管理システム)			
	学修のポイント5	ウイルスについて			
学修のポイント6	ファイアーウォールについて				
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		情報セキュリティとは			
第2回		インターネットとセキュリティ(1)			
第3回		インターネットとセキュリティ(2)			
第4回		インターネットとセキュリティ(3)			
第5回		攻撃方法			
第6回		暗号化と電子認証(1)			
第7回		暗号化と電子認証(2)			
第8回		脅威とリスク(1)			
第9回		脅威とリスク(2)			
第10回		マルウェア			
第11回		情報セキュリティポリシー			
第12回		従業員とセキュリティ			
第13回		情報セキュリティに関する基準			
第14回		法制度			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(講義)		科目名:教育実習指導(初等)		講師:奥村一成	
科目概要・目標	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。 本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解(教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。 また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。 学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。 (実務を有する講師による授業の補足) 当科目は、小学校・中学校で教員として学校教育にあたり管理職を務めながら教育センターで現場講師として若手教員の研修を行ったり、市の教育研究員として実践研究を行ったりした講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	参考文献	【教科書】 「教育実習(初等)の手引き」 【参考資料】 ①平成29年告示小学校学習指導要領対応「小学校教育実習ガイド」 ②文科省「小学校学習指導要領解説」			
	期末試験	授業の中で指示する。			
	回数	授業内容			
第1回	講義概要、教育実習の意味 実習に向けての自己課題				
第2回	子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅰ 教育環境と子どもの実態				
第3回	子どもの理解と援助・支援技術の理解Ⅱ 教育環境と子どもの実態				
第4回	実習に必要な心構え				
第5回	指導案、記入に必要な事項				
第6回	子どもの活動と教師の援助、支援				
第7回	指導案一枚の中の関連				
第8回	指導案の作成と分析Ⅰ 題材、活動内容等の記入				
第9回	指導案の作成と分析Ⅱ 援助、支援等の工夫				
第10回	模擬授業の実際 その1				
第11回	模擬授業の実際 その2				
第12回	模擬授業の実際 その3				
第13回	子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1				
第14回	子どもの理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2				
第15回	目指す授業と自己課題の再設定				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	自分の課題意識が持てたかどうか		
	授業内評価	20点	授業態度		
		20点	提出物		
備考		実習を前にした大切な授業であるという意識と緊張感をもち、積極的な態度で学修して欲しいと願っています。			

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師:高橋直子	
科目概要・目標	パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。				
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)			
期末試験		実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		パワーポイントの基本			
第2回		いろいろなスライドの作成			
第3回		効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用			
第4回		リンク機能の利用			
第5回		グラフのスライドの作成			
第6回		SmartArt機能を使ったスライドの作成			
第7回		図解のパターンを理解するスライドの作成			
第8回		スライドマスターの利用			
第9回		図解の復習			
第10回		複雑な図解のスライドの作成			
第11回		自由にアレンジしたスライドの作成			
第12回		話の流れを考える			
第13回		復習			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
	教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをおとした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション レクリエーション(以下「レク」)支援とは/現場実習について 実技体験				
第2回	レク支援の展開方法(1) 個別及び集団レク支援方法とその実践				
第3回	レク支援の理論(1) コミュニケーションと信頼関係づくりの理論				
第4回	レク支援の理論(2) 良好な集団づくりの理論				
第5回	レク支援の理論(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論				
第6回	レク支援の方法(1) 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ				
第7回	レク支援の方法(2) 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング				
第8回	レク支援の方法(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法①				
第9回	レク支援の方法(4) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法②				
第10回	レク支援プログラムの立案 グループ単位でレクプログラムを立案する				
第11回	レク支援実習① 立案したレクプログラムの支援実習				
第12回	レク支援実習② 立案したレクプログラムの支援実習				
第13回	レク支援実習③ 立案したレクプログラムの支援実習				
第14回	レク支援実習④ 立案したレクプログラムの支援実習				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	30点	支援計画書の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:体育科指導法		講師:山口榮三	
科目概要・目標	体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学修する。スクーリングは実技中心の授業であり、体育の模擬授業形式で授業を進める。部分的には講義やディスカッション形式で授業を行う。				
教科書		高橋建夫『新版 体育科教育学入門』大修館書店 小谷川元一『教師と親の「共育」で防ぐ いじめ・学級崩壊』			
提出課題	レポート設題1	体育学修のポイントを整理し、具体的事例をもとにより良い体育授業について述べよ。 (ポイント) 次の点を踏まえて述べること。 ①「わかる」「できる」「かかわる」が両立する体育授業とは何か把握する。 ②体育の特性を整理し、人間関係構築のために体育科の果たす役割を理解する。 ③子どもが伸びる具体的な教材を示し、授業のポイントを整理する。			
	学修のポイント1	体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか			
	学修のポイント2	人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか			
	学修のポイント3	体育の教材づくりについて、具体的な事例をもとに述べよ。			
	学修のポイント4	体育科学習指導案作成上の留意点について			
	学修のポイント5	いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について			
	学修のポイント6	体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて			
期末試験		上記の科目修了試験学習ポイント1～3の設題から1つ			
回数		授業内容			
第1回		体育の学習主体の子どもの理解			
第2回		体育の領域と単元構成について教科書をもとに整理する。			
第3回		典型教材を作成する。(資料等を参考にしながら、児童に学習させたい教材を考案する。			
第4回		人間関係を構築する体育学習について教科書等をもとに整理する。(希薄な人間関係の社会背景についても考察する)			
第5回		いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について、参考書の具体的事例などをもとに整理する。			
第6回		体育学習において教師が特に配慮すべきことについて、自身の経験をもとにまとめる。(安全面の配慮は必ずおさえる)			
第7回		体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。			
第8回		体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。			
第9回		体育学習指導案作成「体づくり運動系教材」			
第10回		体育学習指導案作成「器械運動系教材」			
第11回		体育学習指導案作成「ボール運動系教材」			
第12回		体育学習指導案作成「保健学習系教材」			
第13回		体育学習指導案作成「陸上運動系教材」			
第14回		体育学習指導案作成(「水泳系教材」「表現運動系教材」から一つを選んで)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	20点	レポート:提出期限までに作成できたか、自分の言葉でまとめられているかで判断します。		
		10点	実技:すすんで授業に参加しているか、体を動かしての行動等で判断します。		
10点		授業態度:本学ルール、マナーにそって、意欲的に授業を受けていたかどうかで判断します。			
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。遅刻は15分まで。その後は欠席となります。遅刻3回で欠席1回。			

(講義)		科目名:コンピュータサイエンスⅠ		講師: 保田 涼佑	
科目概要・目標	コンピュータを効率的に使うためには、その操作方法に習熟するだけでなく、コンピュータの基本的な仕組みや動作について学ぶことが有効である。本科目では、コンピュータの基本構成や内部データ表現、ソフトウェアに関する基本概念を学び、コンピュータ内部では実際にどのような処理が行われているかを理解する。				
	教科書		はじめて学ぶコンピュータ概論		
提出課題	レポート設題1	身近な日常行動の中から、何かしらの問題解決を実現する行動を選び、その手順を箇条書きにせよ。 (ポイント)アルゴリズムの条件を満たし、かつ処理の基本3構造を含んでいること。			
	学修のポイント1	コンピュータの5つの基本構成要素を挙げ、各々の役割を説明せよ。			
	学修のポイント2	浮動小数点表現で誤差の生ずる原因を2つ挙げ符号1bit指数部7bit仮数部24bitにおいて各々の原因に該当する小数の2進数表現と発生する誤差を示せ。			
	学修のポイント3	ド・モルガンの定理が成り立つことを、真理値表を使って確かめよ。			
	学修のポイント4	OSとは何か、また、その機能と役割を記述せよ。			
	学修のポイント5	データ型とデータ構造には、どのようなものがあるか挙げ、それぞれの具体例を身近なものから選び、その値を書け。			
	学修のポイント6	コンピュータアルゴリズム化できない(定式化できない)問題の例を身近な題材から探し、アルゴリズム化できないのかを述べよ。			
期末試験					
回数		授業内容			
第1回		コンピュータの概要			
第2回		数の表現			
第3回		論理演算と論理回路			
第4回		コンピュータの種類			
第5回		コンピュータの構成要素			
第6回		システム構成			
第7回		ソフトウェア			
第8回		オペレーティングシステム			
第9回		応用ソフトウェア			
第10回		ユーザインタフェース			
第11回		マルチメディア			
第12回		データベース			
第13回		プログラム言語			
第14回		まとめ・復習・試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	30点	授業態度、提出物などによって評価する。		
備考		授業中に居眠り、私語、許可のない携帯電話の使用、音楽等の聴取、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には、減点評価する。			

2026年度 前期

(講義)		科目名:教養基礎講座		講師:片桐 淳	
科目概要・目標	教員採用試験や将来教壇に立った時に必要となる各教科の教養を高めること				
教科書		なし			
期末試験		総復習テスト			
回数		授業内容			
第1回		教科復習等			
第2回		教科復習等			
第3回		教科復習等			
第4回		教科復習等			
第5回		教科復習等			
第6回		教科復習等			
第7回		教科復習等			
第8回		教科復習等			
第9回		教科復習等			
第10回		教科復習等			
第11回		教科復習等			
第12回		教科復習等			
第13回		教科復習等			
第14回		教科復習等			
第15回		教科復習等			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	25点	総復習テスト		
	授業内評価	45点	各回復習テスト(3点×15回)		
備考					

2026年度前期

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅱ(教採対策理科)		講師: 奥村 一成	
科目概要・目標	教員採用試験の小学校全科のうち、学習指導要領(理科)と理科についての出題を予想して演習を行う。				
教科書		参考書:過去問(2026年度)			
期末試験		授業内で指示します。			
回数		授業内容			
第1回		学習指導要領における「理科の目標と各学年の内容」			
第2回		学習指導要領における「理科の指導計画の作成と内容の取扱い」			
第3回		物質・エネルギー(物理分野Ⅰ)			
第4回		物質・エネルギー(化学分野Ⅰ)			
第5回		生命・地球(生物分野Ⅰ)			
第6回		生命・地球(地学分野Ⅰ)			
第7回		物質・エネルギー(物理分野Ⅱ)			
第8回		物質・エネルギー(化学分野Ⅱ)			
第9回		生命・地球(生物分野Ⅱ)			
第10回		生命・地球(地学分野Ⅱ)			
第11回		物質・エネルギー(物理分野Ⅲ)			
第12回		物質・エネルギー(化学分野Ⅲ)			
第13回		生命・地球(生物分野Ⅲ)			
第14回		生命・地球(地学分野Ⅲ)			
第15回		期末試験対策			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み資料なし。		
	授業内評価	20点	課題		
		20点	受講姿勢		
備考		授業課題に向けて、実際に演習します。			

(講義)		科目名：特別ニーズ教育論		講師：花木元司	
科目概要・目標	障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1)インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題についてそれぞれ講述する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、特別支援学校で障害児の教育にあたってきた講師のもと、教育現場の実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		【教科書】玉村公二彦、他『新版 キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ。 【参考資料】湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝「よくわかるインクルーシブ教育」ミネルヴァ書房			
提出課題	レポート設題 1	現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える問題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてあなたの考える方策を述べよ。			
	学修のポイント 1	インクルーシブ教育の理念について			
	学修のポイント 2	特別支援教育とインクルーシブ教育について			
	学修のポイント 3	障害の理解について			
	学修のポイント 4	特別支援学校の学習指導要領と教育課程について			
	学修のポイント 5	障害児の教育課程について			
	学修のポイント 6	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて			
期末試験		講義の中で発表する。			
回数		授業内容			
第1回		インクルーシブ教育とは ポイント①			
第2回		インクルーシブ教育の理念について ポイント①			
第3回		我が国の障害児教育 特別支援教育の歴史 ポイント②			
第4回		現在の特別支援教育の現状と課題 ポイント②			
第5回		特別支援教育とインクルーシブ教育について ポイント②			
第6回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第7回		特別支援学校の学習指導要領と教育課程について ポイント④			
第8回		障害の理解について 視覚障害・聴覚障害 ポイント③			
第9回		障害の理解について 知的障害・肢体不自由・病弱 ポイント③			
第10回		障害の理解について 重度重複障害児 ポイント③			
第11回		障害の理解について 発達障害：学習障害（読み書き障害）・ADHD・自閉症（ASD） ポイント③			
第12回		障害児の教育課程について ポイント⑤			
第13回		障害児の教育課程について ポイント⑤			
第14回		特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり ポイント⑥			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	的確に課題の意図を捉えているか		
	授業内評価	20点	積極的に授業に臨んだか		
		20点	提出物(期限内に提出できたか)		
備考					

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅵ(教育法規)		講師: 木内正範	
科目概要・目標	本科目は、教員採用試験対策「教職教養」の教育法規の学習として、問題集(過去問題を含む)を中心に組み、採用試験に対応できる知識を身につけることを目指している。				
	教科書	教員採用試験対策 参考書2 教職教養Ⅱ 東京アカデミー編			
	期末試験	説題は事前に提示			
	回数	授業内容			
第1回	学修の目的と方法(問題集の学修と確認テスト) 1.教育法規とは何か(p.134～)テキスト セサミ=(A) (B) 確認テスト				
第2回	2.参考書2 憲法と教育基本法(p.141～)テキスト セサミ (1) (2)、確認テスト				
第3回	2.参考書2 憲法と教育基本法(p.147～)テキスト 参考書2 「1」「2」、確認テスト				
第4回	3.参考書2 学校に関する法規(p.156～)テキスト セサミ(3) (4)、確認テスト				
第5回	3.参考書2 学校に関する法規(p.170～)テキスト 参考書2 「3」「4」、確認テスト				
第6回	4.参考書2 学校教育に関する法規(p.183～)テキスト セサミ(5) (6) (7)、確認テスト				
第7回	4.参考書2 学校教育に関する法規(p.207～)テキスト 参考書2 「5」「6」「7」、確認テスト				
第8回	5.子どもに関する法規(p.221～)テキスト セサミ (8) (9)、確認テスト				
第9回	5.子どもに関する法規(p.235～)テキスト 参考書2 「8」「9」、確認テスト				
第10回	6.教職員の法規(p.252～)テキスト セサミ (11) (12)、確認テスト				
第11回	6.教職員の法規(p.271～)テキスト 参考書2 「10」「11」「12」、確認テスト				
第12回	7.教育行政、生涯教育(p.302～)テキスト セサミ (13) (14)、確認テスト				
第13回	7.教育行政、生涯教育(p.307～)テキスト 参考書2 「13」「15)、確認テスト				
第14回	問題集1より、「①憲法と教育基本法」「②学校に関する法規」「③学校教育に関する法規」、確認テスト				
第15回	問題集1より「④子どもに関する法規」「⑤教職員の法規」「⑥教育行政等の法規」確認テスト ◎期末試験の設題について				
第16回	期末試験(教科書等持ち込み不可) 60分間				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	20点	ディスカッション(私見、具体性、建設的な意見等)		
		30点	受講態度(学習意欲、質問、意見等)		
備考	1 授業では、問題文の意味を正しく理解して、文面の前後から解答のヒントを探り出し、最適と思う解 答を考えてください。そして、正解と誤答をチェックしながら、正解を覚えてください。 2 教員採用試験への学習は、マラソンです。ゴールまでの距離(時間)に対して、計画的に、持続的に息の切れない走りが大切です。健康管理を十分にして、無理のない走り続けられるライフプランを立て、悔いのない走りをしてください。期待していますよ。				

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンスを含む)		講師:室山俊浩 仁井田 和也	
科目概要・目標	外部講師の話を聞くことで、就職活動についての意識を高めていく。 公務員試験や能力試験対策として問題演習を行う。				
教科書	配布資料を基に学習を進める				
期末試験	後日連絡				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	問題演習				
第3回	ジモト就活について				
第4回	問題演習				
第5回	就労支援事業について				
第6回	就職活動について				
第7回	キャリアシーミーツ 学内企業説明会				
第8回	問題演習				
第9回	法人等による出張授業				
第10回	問題演習				
第11回	法人等による出張授業				
第12回	問題演習				
第13回	法人等による出張授業				
第14回	問題演習				
第15回	問題演習				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

令和8年度 前期

(講義)	科目名:教職教養演習Ⅱ(社会)	講師:山田哲史
科目概要	今後、受験することとなる小学校教員採用試験を想定しながら、社会に関する内容について問題演習を通して得点力を高めていきたい。	
教科書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)	
参考書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)	
回数	授業内容	
第1回	オリエンテーション/問題演習①	
第2回	問題演習②	
第3回	問題演習③	
第4回	問題演習④	
第5回	問題演習⑤	
第6回	問題演習⑥	
第7回	問題演習⑦	
第8回	問題演習⑧	
第9回	問題演習⑨	
第10回	問題演習⑩	
第11回	問題演習⑪	
第12回	問題演習⑫	
第13回	問題演習⑬	
第14回	問題演習⑭	
第15回	問題演習⑮	
第16回	期末試験	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	授業内評価	40点 期末テスト
		30点 授業態度
備考	授業内容は変更になる場合があります。	

(講義)		科目名:専門実技Ⅰ(教科実技)		講師:松村久美子	
科目概要・目標	授業者としての資質能力、実践力を授業実践を通して自ら高めていく。適宜、教員採用試験必出であり教職現場に必要な法規や、教育に関する時事の共有・意見交換を加えつつ、教育実習・教職に就いた際に必要とされる資質能力を高める。				
教科書	授業中の配布プリント、ワークシート (2年次配布の省察ノート)				
期末試験	実践までや実践での自身への気付きや試行錯誤、工夫等を具体的に書き、教師の資質能力を培うために今から未来に向かって自身がすべきことを述べよ。				
回数	授業内容				
第1回	指導案検討 算数4年 教採(1)2026年動向				
第2回	算数科授業検討一年 教採(2)時期学習指導要領				
第3回	算数科授業検討二年 教採(3)教育振興基本計画				
第4回	算数科授業検討三年 教採(4)令和の日本型学校教育				
第5回	算数科授業検討四年 教採(5)生徒指導提要①				
第6回	算数科授業検討五年 教採(6)生徒指導提要②				
第7回	算数科授業検討六年 教採(7)受験県の指針				
第8回	授業実践教材作成 教育実習①準備				
第9回	算数科授業実践① 教育実習②初日				
第10回	算数科授業実践② 教育実習③自己紹介				
第11回	算数科授業実践③ 教育実習④板書				
第12回	算数科授業実践④ 教育実習⑤子どものやる気				
第13回	算数科授業実践⑤ 教育実習⑥お礼状				
第14回	国語科の授業 物語文 板書 縦書き				
第15回	音読方法				
第16回	期末テスト				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	10点	授業準備		
		10点	実践授業		
		20点	授業態度		
備考	計画ありきではなく、受講生からの教育時事などの自主的な提供・共有・検討を奨励する。				

令和8年度 前期

(講義)		科目名:教職教養演習Ⅴ(小論・面接)		講師:山田哲史	
科目概要	今後、受験することとなる小学校教員採用試験を想定しながら、小論文や面接に関する内容について問題演習を通して理解の幅を広げていきたい。				
教科書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)				
参考書	指定なし(必要に応じて資料を配付します)				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション/問題演習①				
第2回	問題演習②				
第3回	問題演習③				
第4回	問題演習④				
第5回	問題演習⑤				
第6回	問題演習⑥				
第7回	問題演習⑦				
第8回	問題演習⑧				
第9回	問題演習⑨				
第10回	問題演習⑩				
第11回	問題演習⑪				
第12回	問題演習⑫				
第13回	問題演習⑬				
第14回	問題演習⑭				
第15回	問題演習⑮				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	授業内評価	40点	期末テスト		
		30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			